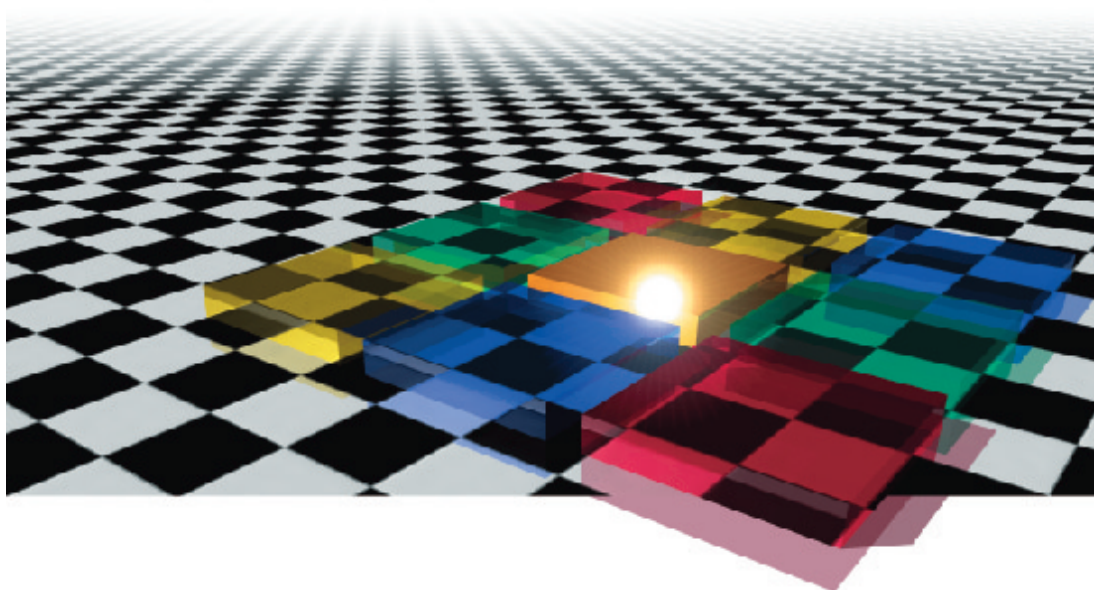


PostScriptファイルの作成

QuarkXPress 4.1r2J

Windows98 + AdobePS 4.4.1

この文書の内容は、FACILIS IM Ver.3.6
に対応しています。



PostScriptファイルは、DTPソフトとOS、プリンタドライバの組み合わせにより、いくつものバリエーションがあります。FACILIS IMで面付けする際には、このドキュメントをよくお読みの上、以下の点に注意してPostScriptファイルを作成してください。

PostScriptファイルを作成する前に、ハードディスクの空き容量を十分に取っておいてください。空き容量が不足している場合は、異常にファイルサイズが小さい、内容の欠けたPostScriptファイルが作成されます。

FACILIS IM Ver3.0からは、コンポジットファイルと色分解ファイルを混在して面付けできるようになりました。ただし、DTPソフトによってはコンポジット出力だけにしか対応していないものもありますので、色分解可能なコンポジットファイルや色分解ファイルと混在させる場合には注意してください。

また、コンポジットファイルと色分解ファイルを混在させた際に正常に出力できない場合は、どちらかの形式に統一して面付けを行ってみてください。特に、面付け後の色分解に問題がある場合は、色分解ファイルに統一して面付けを行ってみてください。

カラーの画像データをDTPソフト上で貼り込む際には、CMYK形式になっているものを使用することをおすすめします。RGB形式のカラー画像データでもCMYKに変換して出力できるRIPもありますが、色味の微妙な違いが出る場合があります。

画像データをDTPソフト上で貼り込む際には、EPS形式やTIFF形式などの、ひとつの画像フォーマットに統一する方が、出力トラブルを減らすことができます。

DTPソフト上でDCS (Desktop Color Separation) 形式のファイルを貼り込んだ場合は、色分解を行ってPostScriptファイルを作成してください。コンポジットで作成すると、DCSの機能が正常に働かなくなります。

特色を持つデータの色分解出力では、以下の点に注意してください。

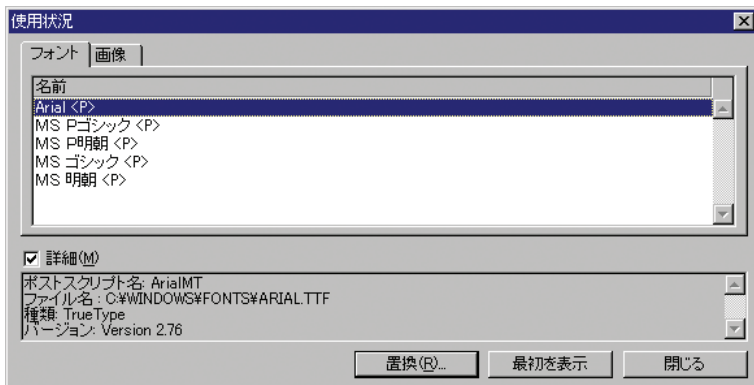
PostScriptファイル（またはEPSファイル）に、特色に関するDSC (Document Structuring Convention : 文書構造化の規約) コメント (%%DocumentCustomColors:、%%CMYKCustomColor:) が存在し、かつB-Makerで正しい特色名が指定されていなければなりません。

特色名には、半角小括弧、つまり '(' と ')' は使用しないでください。また、特にAdobe Illustrator では、日本語の使用は避けてください。

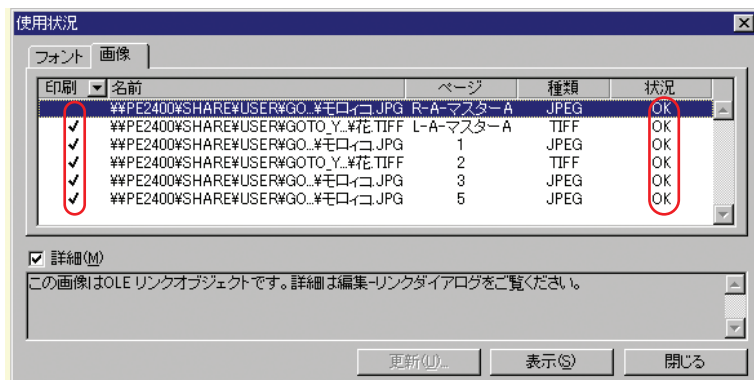
PostScriptファイルを作成する際は、出力環境に合ったPPD (PostScript Printer Description) ファイルを使用してください。最新のPPDファイルは、出力機のメーカーから入手することができます。

RIPやプリントサーバでOPI (Open Prepress Interface) 機能を使用する場合は、各システムの取扱説明書を参照してください。

補助メニューの「使用状況...」を選択して、フォントと画像の使用状況を確認してください。



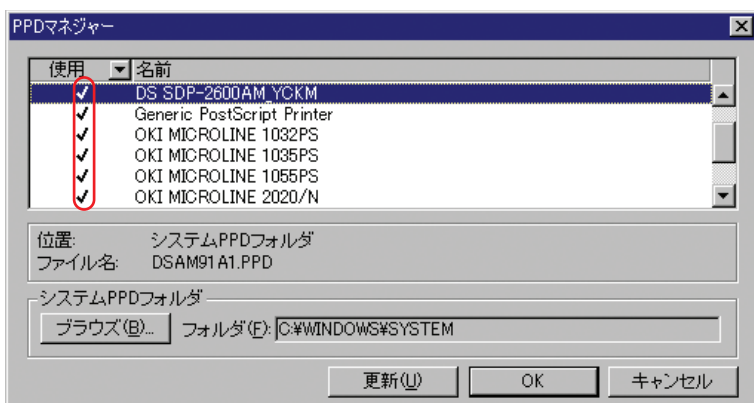
ドキュメント中で使用しているフォントを確認してください。



全ての貼り込み画像の、印刷が「オン」(チェックマーク付き)で、状況が「OK」であることを確認してください。

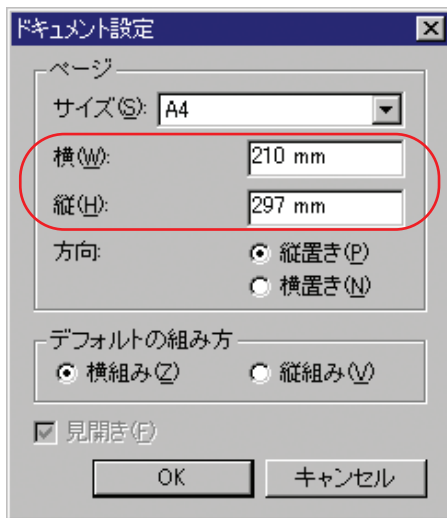
状況が「移動」か「更新」と表示されている場合は、その項目をリストから選択して(ハイライト表示)、「更新...」ボタンをクリックしてリンクを張り直してください。

次に補助メニューの「PPDマネージャー...」を選択してください。



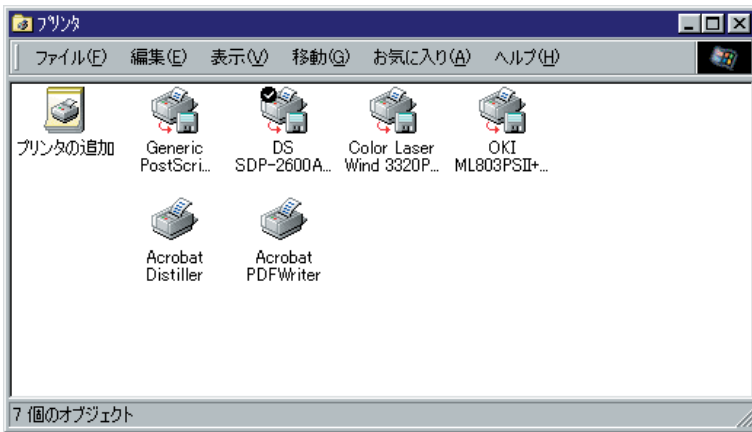
目的の出力機のPPDファイルの使用が「オン」(チェックマーク付き)になっていることを確認してください。

ファイルメニューから「ドキュメント設定...」を選択してください。

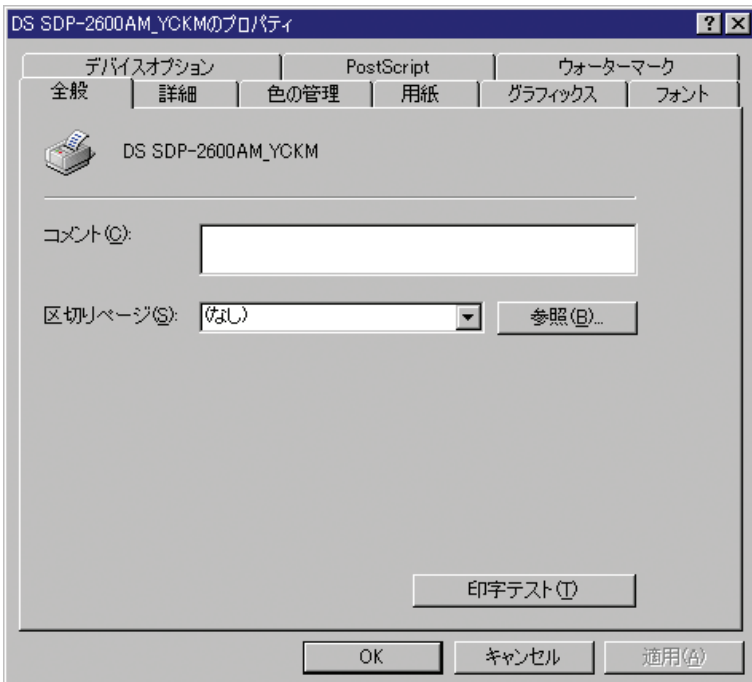


ページのサイズを確認してください。

タスクバーから [スタート] - [設定] - [プリンタ] を選択してください。

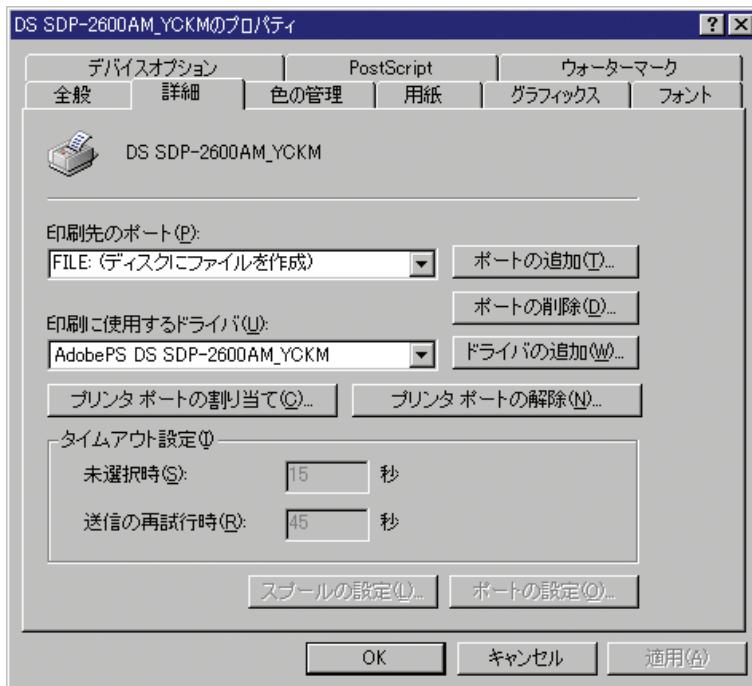


出力先にするプリンタドライバを選択して、プロパティを表示させてください。



このタブには設定項目はありません。

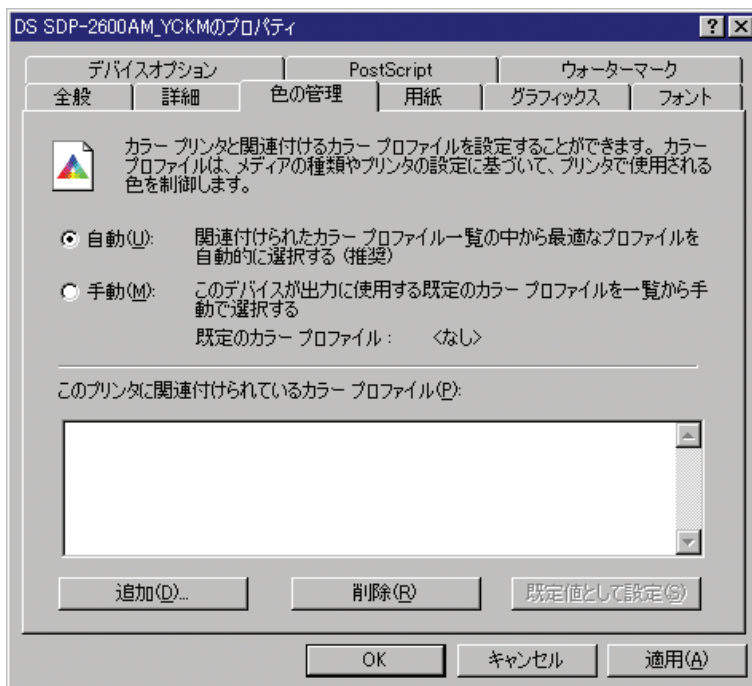
詳細タブをクリックしてください。



印刷先のポート：「FILE: (ディスクにファイルを作成)」に設定してください。

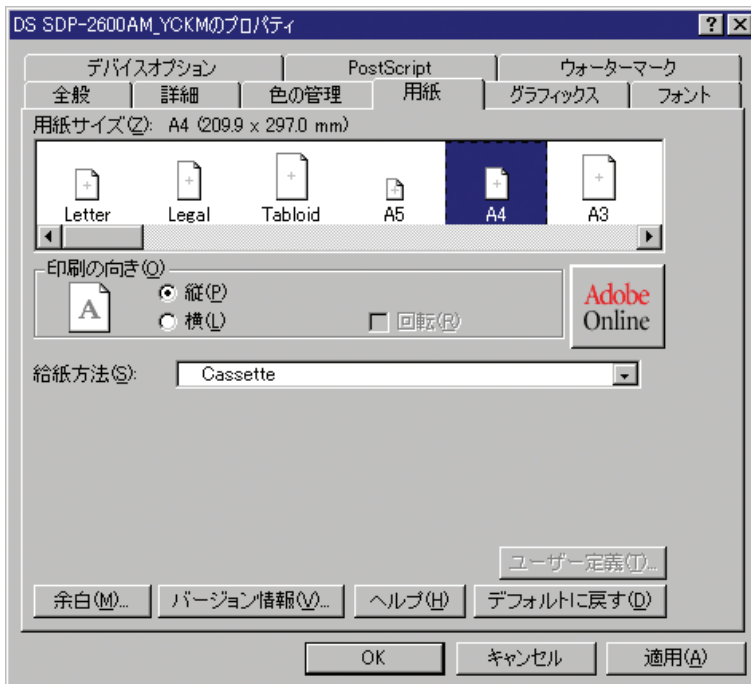
印刷に使用するドライバ：出力機に合ったドライバが設定されていることを確認してください。

色の管理タブをクリックしてください。



色管理を行う場合は、このタブで適切なプロフィールを設定してください。

用紙タブをクリックしてください。



用紙サイズ：QuarkXPressの「ドキュメント設定」ダイアログで確認したサイズを選択してください。

印刷の向き：「縦」を選択してください。PostScriptファイル作成では、ここでいう印刷の向きは文書の置き位置ですので、横長ページの文書であっても「縦」を選択することになります。

回転：チェックしないでください。

「余白...」ボタンをクリックしてください。

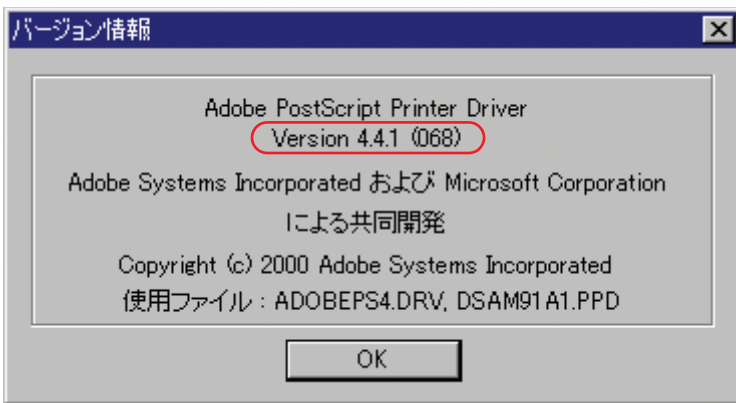


上、下、左、右：最小値がゼロのときは、ゼロに設定してください。

FACILIS IMが認識するドキュメントの用紙サイズは、上の用紙タブで設定した用紙サイズから、この余白分を引いたサイズになります。オフィス用プリンタのドライバでは、余白がゼロに設定できない場合がありますので注意してください。

余白をゼロに設定できない場合は、X-PlateでPostScriptファイルをリンクさせるときに、ページ画像にオフセットをかけて補正してください。補正量は、
余白の左の値を、横のオフセットにプラス
余白の下の値を、縦のオフセットにプラス
です。

用紙タブで、「バージョン情報...」ボタンをクリックすると、プリンタドライバのバージョンを確認することができます。



「OK」ボタンをクリックすると、用紙タブに戻ります。

グラフィックスタブをクリックしてください。



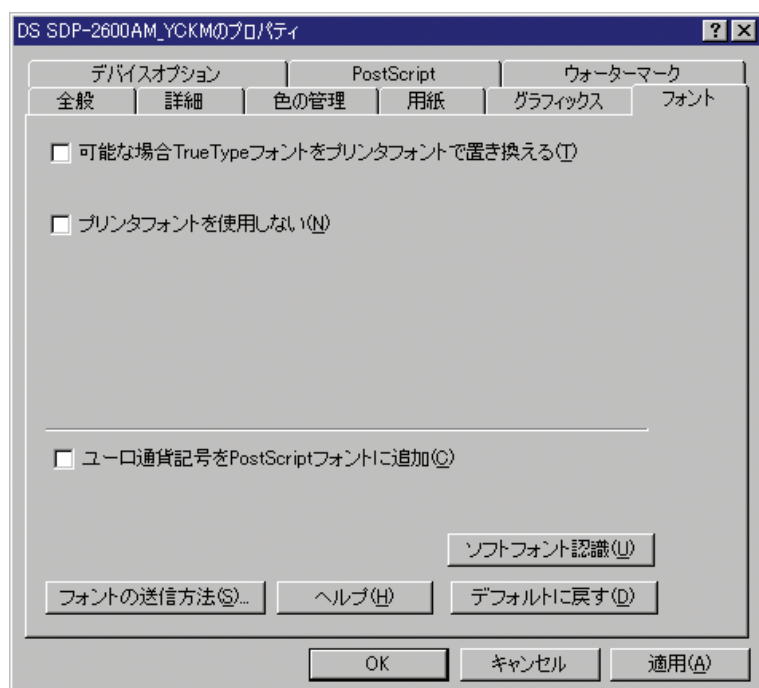
解像度：出力機が出力可能な解像度が選択可能ですので、目的の解像度を選択してください。

ネガティブイメージ印刷：チェックしないでください。製版工程の都合で版画像をネガにする必要がある場合には、FACILIS IM側でネガ設定を行えます。
ミラーイメージ印刷：チェックしないでください。製版工程の都合で版画像を鏡像にする必要がある場合には、FACILIS IM側で鏡像設定を行えます。

レイアウト：「1-up」を選択してください。

拡大 / 縮小：通常は「100」%に設定してください。

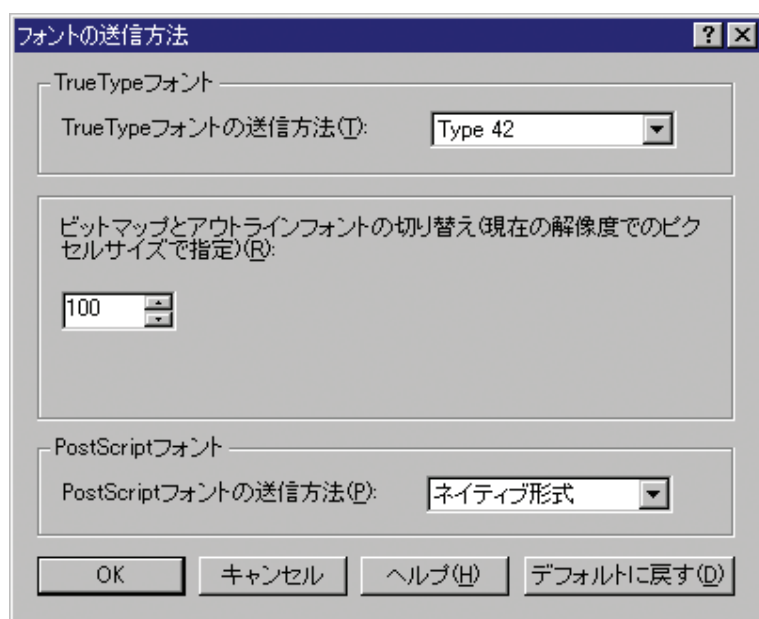
フォントタブをクリックしてください。



フォントの設定は、出力環境に合わせて行ってください。

詳しくは、AdobePSプリンタドライバのヘルプなどを参照してください。

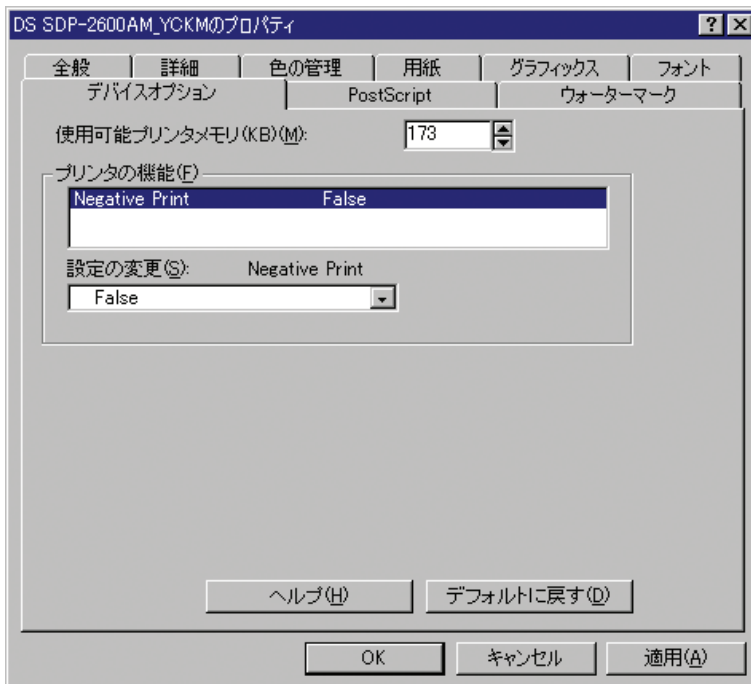
「フォントの送信方法...」ボタンをクリックしてください。



フォントの送信方法の設定は、出力環境に合わせて行ってください。

詳しくは、AdobePSプリンタドライバのヘルプなどを参照してください。

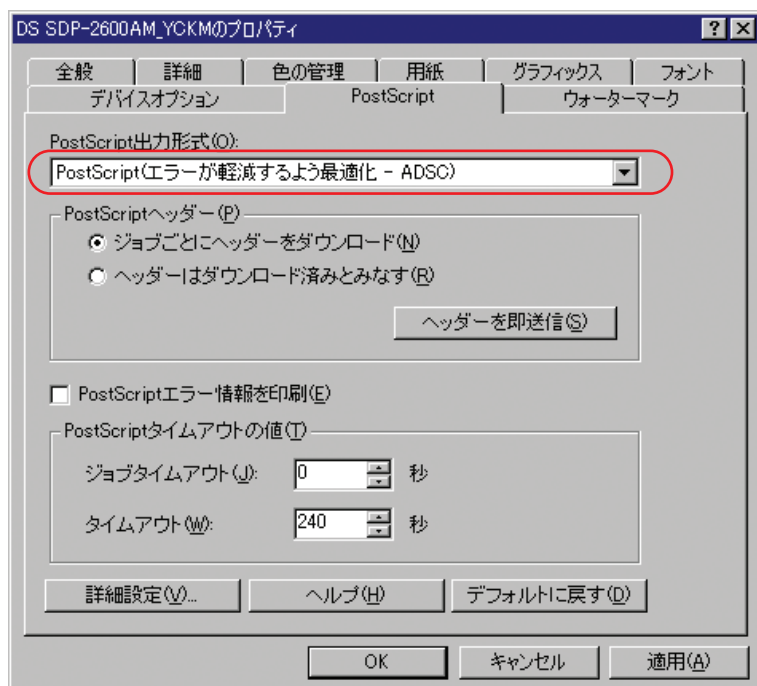
デバイスオプションタブをクリックしてください。



使用可能なプリンタメモリ：出力環境に合わせて設定してください。

プリンタの機能：プリンタドライバによって表示される設定項目が異なります。ネガ、鏡像などの設定は行わないように設定してください。

PostScriptタブをクリックしてください。



PostScript出力形式：「PostScript（エラーが軽減するよう最適化 - ADSC）」を選択してください。他の項目に設定すると、面付けするとエラーが発生するPostScriptファイルが作成されます。

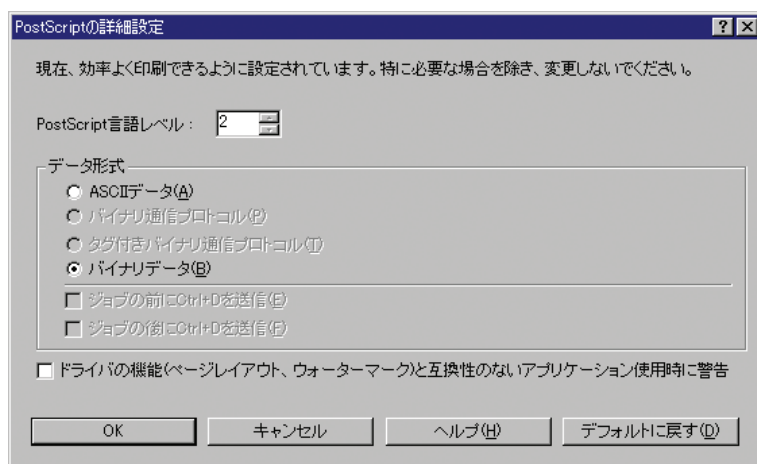
PostScriptヘッダー：「ジョブごとにヘッダーをダウンロード」を選択してください。

PostScriptエラー情報を印刷：通常はチェックしないでください。

ジョブタイムアウト：面付け用データの場合は、ゼロで構いません。

タイムアウト：面付け用データの場合は、ゼロで構いません。

「詳細設定」ボタンをクリックしてください。

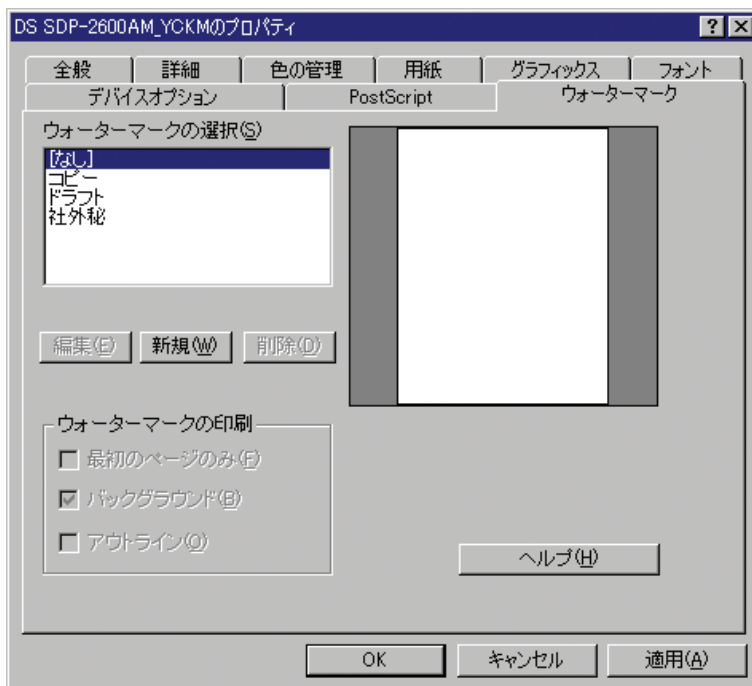


PostScript言語レベル：AdobePS 4.4では、レベル1は選択できません。レベル1の出力環境を使う場合は、AdobePS 4.1でプリンタドライバを作成してください。また、FACILIS IMの色分解フィルタはPostScript3には対応していませんので、色分解をFACILIS IMで行う場合には、必ず「2」に設定してください。

データ形式：「バイナリデータ」を選択してください。

ドライバーの機能と互換性のないアプリケーション使用時に警告：チェックしないでください。

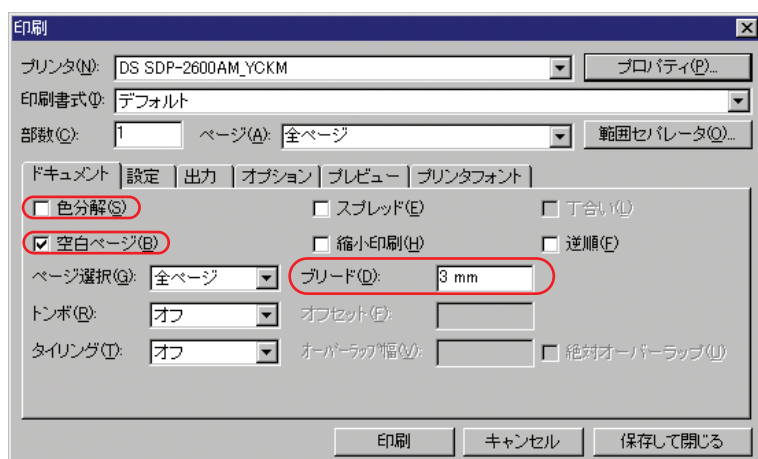
ウォーターマークタブをクリックしてください。



ウォーターマークの選択：[なし]を選択してください。

「OK」ボタンをクリックして、プリンタドライバのプロパティを閉じてください。

QuarkXPressに戻り、ファイルメニューから「印刷...」を選択してください。



部数：「1」に設定してください。

ページ：PostScriptファイルに書き出したい範囲を設定してください。

色分解：色分解したPostScriptファイルを作成する場合はチェックしてください。コンジョイントファイルを作成する場合はチェックしないでください。(下の参照)

空白ページ：チェックしてください。文書に白紙ページが含まれている場合は、このチェックをしないと、白紙ページをスキップしてPostScriptファイルを作成するため、ページの順序がずれてしまいます。

ページ選択：通常は「全ページ」を選択してください。

トンボ：チェックしないでください。FACILIS IMで面付けする際には、ページごとのトンボは不要です。また、必要なトンボはFACILIS IM側で設定することができます。

タイリング：「オフ」を選択してください。

スプレッド：チェックしないでください。

縮小印刷：チェックしないでください。

丁合い：チェックしないでください。

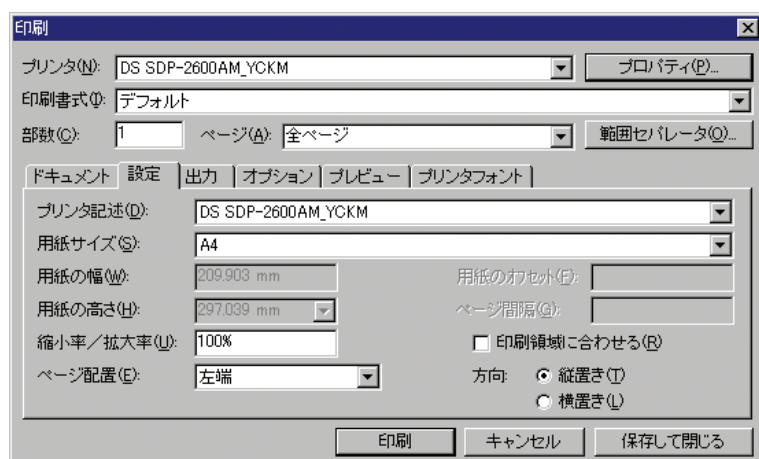
逆順：通常はチェックしないでください。ページの並びを逆順にする必要がある場合には、FACILIS IMでPostScriptファイルを面付けするとき逆順で割り付けることもできます。

ブリード：裁落し(塗り足し)幅を入力してください。ここで裁落し幅を設定しないと、面付け時に裁落し部分が出力されません。

また、XTensionに「Custom Bleeds XT」が入っていると、下図のようにドキュメントタブの設定項目からブリードがなくなり、別にブリードタブが出現します。裁落しの設定はこのブリードタブで行います。

次ページの設定タブで選択するPPDファイルによっては、コンジョイントファイルを作成するとカラーの情報を持たないグレースケールデータになってしまう場合があります。これは、QuarkXPressがPPDファイル中の「*ColorDevice:」の設定項目を参照してデータを書き分けているためです。PPDファイル中に「*ColorDevice: True」と書かれていれば、カラーの情報をを持ったコンジョイントファイルが作成されます。

設定タブをクリックしてください。



プリンタ記述：目的の出力機のPPDファイルを選択してください。選択したPPDファイルの持つスクリーン設定値は、次の出力タブで確認、設定することができます。(下の 参照)

用紙サイズ：ドキュメント設定で確認したページのサイズを選択してください。定型サイズにはないカスタムサイズの場合は「カスタム」を選択して、下の「用紙の幅」、「用紙の高さ」、「ページ配置」の設定を行ってください。

用紙の幅：カスタムサイズの場合は、手入力で設定してください。ここで設定した数値がFACILIS IMが

認識する用紙サイズになりますので、よく確認してください。

用紙の高さ：カスタムサイズの場合は、手入力で設定してください。ここで設定した数値がFACILIS IMが認識する用紙サイズになりますので、よく確認してください。

縮小率/拡大率：通常は「100%」に設定してください。

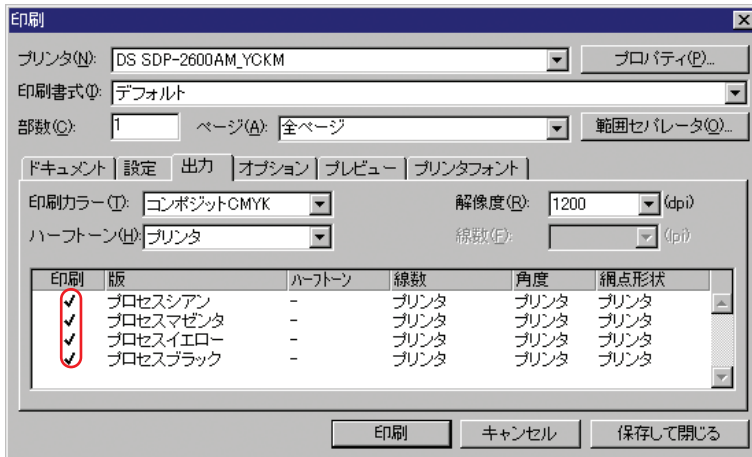
ページ配置：用紙サイズが定型サイズの場合は「左端」を選択してください。カスタムサイズの場合は「センター」を選択してください。この設定が正しくないと、面付けしたときにページの位置がずれずれます。

印刷領域に合わせる：チェックしないでください。

方向：「縦置き」を選択してください。ここでいう方向は用紙の向きではなく文書の置き位置ですので、横長ページの文書であっても「縦置き」を選択することになります。

選択するPPDファイルによっては、コンポジットファイルを作成するとカラーの情報を持たないグレースケールデータになってしまう場合があります。これは、QuarkXPressがPPDファイル中の「*ColorDevice:」の設定項目を参照してデータを書き分けているためです。PPDファイル中に「*ColorDevice: True」と書かれていれば、カラーの情報を持ったコンポジットファイルが作成されます。

出力タブをクリックしてください。



版：ドキュメントタブで「色分解」をチェックしていない場合は、「白黒」、「グレースケール」、「コンポジットCMYK」が選択可能です。「色分解」をチェックしている場合は、「プロセス版に変換」と「プロセス&スポット」が選択可能です。お使いのワークフローに合った形式を選択してください。

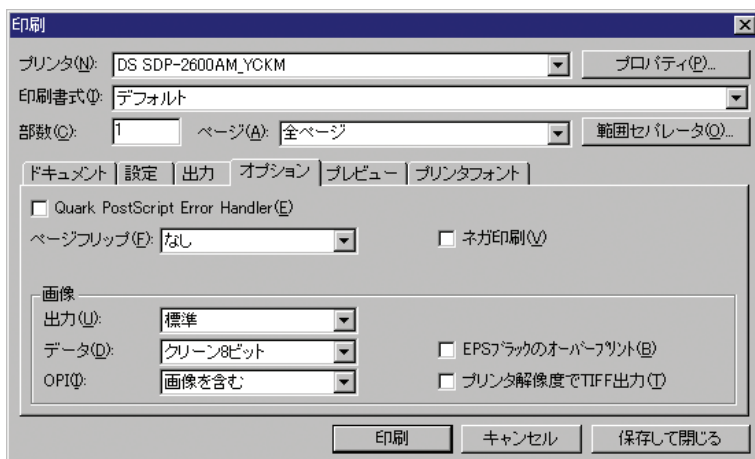
ハーフトーン：「計算値」を選択することをお勧めします。スクリーン設定は、DTPソフト、FACILIS IM、RIPの3ヶ所で行うことができますが、どこで設定した値が有効になるかはRIPによって異なります。そのため、設定値が各所ではばらばらになっていると、目的の出力結果が得られない可能性があります。それを防ぐためには、ここで「計算値」を選択して確実に入力、設定しておくことが望ましいです。

解像度：出力機が出力可能な解像度が選択可能ですので、目的の解像度を選択してください。

線数：目的の線数を選択するか、直接数値を入力してください。また、下の色のリストの項目を選択して（ハイライト表示）、「線数」、「角度」、「網点形状」のポップアップメニューを使って設定値を変えることができます。

出力する色の左側にチェックマークが付いていることを確認してください。

オプションタブをクリックしてください。



Quark PostScript Error Handler : チェックしないでください。

ページフリップ : 「なし」を選択してください。製版工程の都合で版画像を鏡像にする必要がある場合には、FACILIS IM側で鏡像設定を行えます。

ネガ印刷 : チェックしないでください。製版工程の都合で版画像をネガにする必要がある場合には、FACILIS IM側でネガ設定を行えます。

出力 : 「標準」を選択してください。

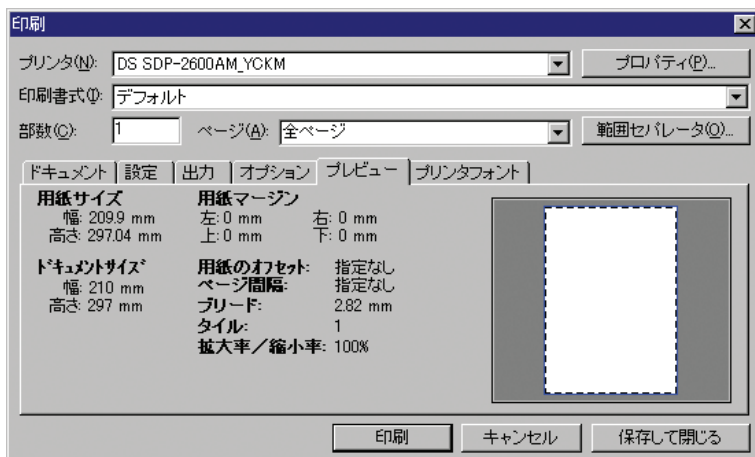
データ : 「バイナリ」を選択してください。

OPI : お使いのOPIシステムに合わせて設定してください。

EPSブラックのオーバープリント : 任意です。

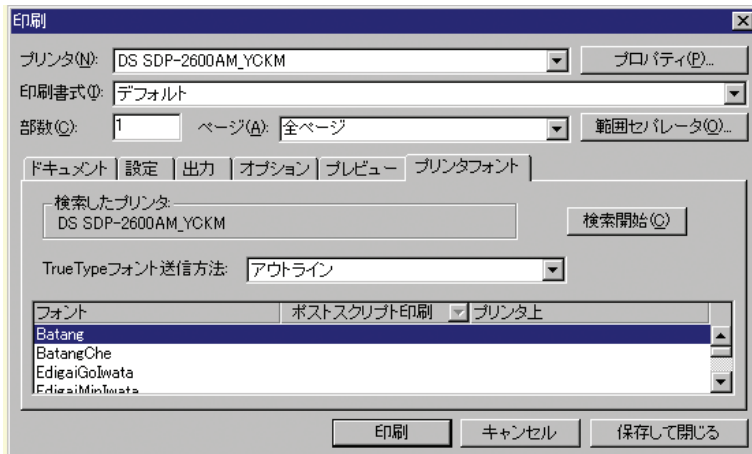
プリンタ解像度でTIFF出力 : 任意です。

プレビュータブをクリックしてください。



このタブには設定項目はありません。

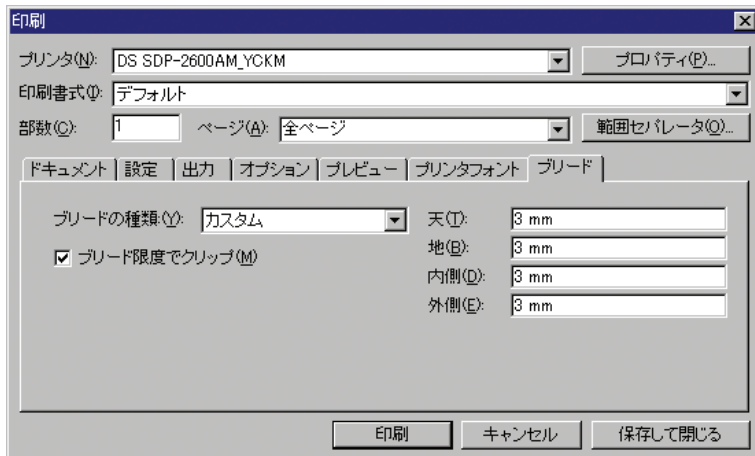
プリンタフォントタブをクリックしてください。



「検索開始」ボタンをクリックして、選択している出力機の持つフォントの確認を行ってください。「ポストスクリプト印刷」と「プリンタ上」にチェックマークの付いたフォントがType1形式で出力可能です。TrueTypeフォントの場合は、チェックが付いていないと構いません。

TrueTypeフォント送信方法：「アウトライン」を選択してください。

ブリードタブが表示されていたら、ブリードタブをクリックしてください。

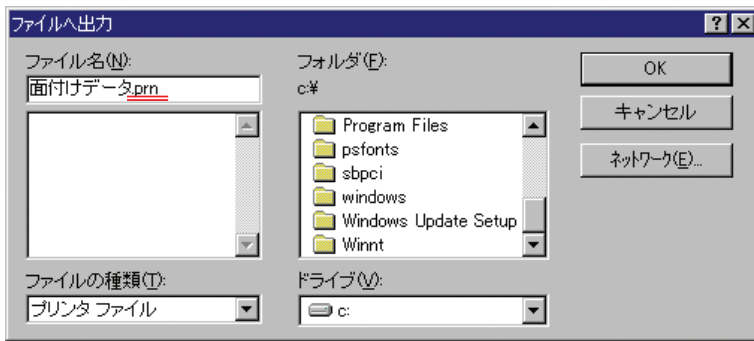


「Custom Bleeds XT」XTensionを使用している場合は、ここで裁落し（塗り足し）の設定を行ってください。ここで裁落し幅を設定しないと、面付け時に裁落し部分が出力されません。

ブリードの種類：「カスタム」を選択してください。
ブリード限度でクリップ：チェックしてください。

天、地、内側、外側：ページのそれぞれの辺の裁落し幅を設定してください。

「印刷」ボタンをクリックすると、ファイル保存ダイアログが表示されます。



PostScriptファイルの保存先と、ファイル名を設定して「OK」ボタンをクリックしてください。PostScriptファイルの作成が開始されます。

FACILIS IM Ver3.0からは、ファイル名の最後は所定の拡張子になっていないと、面付け対象ファイルとして認識しないようになりました。PostScriptファイルの場合は、拡張子は".ps"か".prn"にしてください。

Windowsではデフォルトで".prn"が付加されますので、拡張子部分はそのままにしておいて構いません。

商標について

PostScriptはアドビシステムズ社の登録商標です。

QuarkXPressはクオーク社の商標です。

Windowsはマイクロソフト社の登録商標です。

その他、本書に記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。